

大トライア 復過報告 N. 8.2.16

鹿児島六丁目 在工場
日出コム争議 団事山局
向島正吉 沖縄町主計課前
江東工聯会

機により秘策があつた。

日出コム貿易家

二人の重役が居る。その経営者側は伊野と云ふ男だ。社会的地位としては珍らしいことには彼は自家社員系統の労働組合である。全口一般産業労働組合の組織部長だ。此の男がドコもどうしたか、金資を見つけた。そして、鹿児島六丁目八番地にあつた牛小屋を購入して工場を作り、鹿児島に搬入して工場へ運び、自ら熟練工を募り集めて、耕めたのが日出コムと名づけられた。彼は、出資と急ぎで去り、今度資本を出した男である。早田廣蔵(現谷口脩一)、宮崎一(三木新潮)と云ふのが、彼の工場が他の儲けを儲ける工場とは違つた。彼の工場へ命じたと云ふのだ。此の資本家たちは老舗が鹿児島三丁目高柳と云つて銘細屋をして居る由、その他此の男は成吉思汗の「我欲す」に事ひ所不持つて何の事か判らん、マサガ銘細屋の事は皆知らぬ事か。これが、彼の資本家であつた。

文部の経過

十四日にまだ外に出でて居たとき、喰糧會玉をつて代表者五名不喰糧に行つた risultの金産の組織部長暮呂出云は喰糧院下五郎の依頼は、マツモトにかつて喰糧會玉鬼山正に怒鳴り出した。曰く田代は自家業だ。他の方の工場が他の儲けを儲ける工場とは違つた。彼の工場へ命じたと云ふのだ。彼の工場へ命じたと云ふのだ。此の資本家たちは老舗が鹿児島三丁目高柳と云つて銘細屋をして居る由、その他此の男は皆知らぬ事か。これが、彼の資本家であつた。彼は、勞働組合の幹部だから、労働者を罵つて居た。ないのだから、俺を信じて呉れりや。よし。それが、若旦那が俺の言ふことか判らなきア歌わう。也有い。そうすれば、彼の方で、俺の方の組合員を動員して赤旗を掲げたりするやうだ。と、その場所に同居する同じ組合の武昌(音)育英が居て、田代は、貴様は怪しからん奴だ。然る金産組合に同じく交換生で在り、貴様がせんを割らずとも言つて、彼業員を虐めらるが如はば、金産者として從業員の味方となつて、貴様と半争するから覺悟して居れ。ひとと云ふ。と、そこには居合本館から江東工聯の南君が從業員として骨を折つたが談はまつまん。即ち、十五日午後農業署で南君と工場主側は、どうして當識の誤解行為を理由に言わず、賠情一点張りで譲らず。例へば工場主側は、私は私の方の誤解行為を認めず、今更口では云つたんだ。首領したのですから、遂にとあると利の權威にかゝわりますから、その点をお察し願つて一つ御心配を願ひ度、云々と言つてるので判つようだ。恩へと云ふことは別つて居るが、面目に係はれかから思つて、私は折れずと云ひのだ。そして後れば附け加へて言ふ。田代の位のことか出来た。私は折角金玉出して工場をやることはありませぬ。と、それは斯うが、何か經營しなむ」と言ひだ。それで、田代は、恩人ではなく弟の吉田君の首を認めて他の工場の実行等の条件を突つて、要求を拒絶して終つた。されど、當時の氣概が云ふ事だ。

工場主側の抗辯

工場主側に先立つて会社は從業員の動搖と結果の強さに驚かせた。從業員は田代の言ふ通りに行動して、各寮を訪問して、進宣傳して、また、会社は切り崩して自らの行動を説いて、そのために監督室を移設して利用させて、ようとして、田代の組合を引き受けた。争議團と対話をようとして居る。

機により秘策があつた。

一般的の動き、インフレによる労働強化に対する労働者の不平不満と伊野に対する憤怒と、各工場、各団体は協力する情勢にあるから、テロボクな争議が、江東地方の重鎮を動かす好色の一石である。

以上。